

＜ もくじ ＞	
1. 長期計画検討委員会報告	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 研究会からの概要報告	3
4. 貴方が出版した著書を「エイジレスフォーラム」で紹介しませんか?	5
5. 事務局からのお願い	5

1. 長期計画検討委員会報告

「長期計画検討委員会」では2021年2月に発足後、毎月1回の会合での審議と5月の会員アンケートを踏まえ、2022年3月13日（日）に報告会を行う予定です。これまで以下のような点について検討を重ね、中長期的展望と課題をまとめご報告いたします。（チラシを再添付）

(1) 創立以来の基本理念の維持と時代の変化に応じた課題の確認

当学会は、団塊の世代が背後に控え大量の人が定年を迎える時代状況において、シニア世代を中心に、定年後に抱える問題の解決や性別・年齢差別のない社会の実現を目指して設立された。当時の基本理念「老若男女共同参画社会」の実現は、現時点でも当学会の変わらぬ目標として維持されている。しかし創立後20年を経過し、少子高齢化・人口減少、世界の地政学的変化、政治・経済の複雑な変化、ICT・AI技術の発達と普及によって、差別・貧困・格差などの問題は、当学会にとっても新たな意味を帯びて迫るようになった。

(2) 時代の変化の中で注目すべき点

- ① 少子高齢化・人口減少・個人化の進展、新自由主義的経済下での貧困と格差の拡大、ICT・AI技術の発達と普及を背景として、孤立・孤独、お一人様化、若者と高齢者の世代間および同世代内、ジェンダー間の分断・対立が生じがちであることへの再認識。
- ② ライフシフトを考慮すれば、今や人生の節目は定年ではなく、50歳。役職定年、早期退職、転職など、すべてのターニングポイントが50歳代に繰り上がりつつある。

(3) シニア社会学会の中長期の課題と展望

- ① 経済、政治、環境などのマクロな動きへの視野を失わずに、コミュニティレベルでの開かれた関係と、相互に敬意をもって依存し支援しあうミクロな社会関係を築く。
- ② 差別・貧困・格差の無い社会を目指す（「だれ一人取り残さない」）

(4) 2022年度から3年間を見据えた展望の中での当面の課題（本田恭助委員作成）

課 題		2022年度	2023年度	2024年度
学 会 内 部 向 け	■ 活動(研究・交流・事業)			
	◆ 今までの活動の継承(大会、研究会、連続講座、フクシマ支援等)	6月-3月	4月-3月	4月-3月
	◆ 新たな活動の支援	4月-3月		
	■ 新規会員の発掘 会員獲得は最優先			
	◆ 活動に参加する人材のリクルーティング	6月-3月	4月-3月	
	■ ICTを駆使・活用する学会活動 セキュリティ、SSL化などの仕組みも取り組む			
	◆ 過去成果・会員情報のデータベース(DB)化	4月-3月		
	◆ データベース(DB)にアクセス・検索できる仕組み構築			
	■ 事務局運営の改変 事務局機能の再定義 実行推進は各プロジェクト			
	◆ 事務局スタッフ強化(担い手探し)	4月-9月		
◆ 事務局の運営の改善(予算化が必要)	7月-9月			

(表は次ページへ続く)

課 題		2022年度	2023年度	2024年度
学 会 外 部 向 け	■ 会員内外の交流機会を増やす			
	◆ 世代間を繋ぐ接点づくり・探し ← 研究会の中で	6月-3月	4月-3月	
	◆ インキュベート(自己覚醒と新規活動・事業への支援)	6月-3月	4月-3月	
	◆ 活動を紹介・発表する機会の創出	4月-3月		
	◆ 紹介・発表の方法			
	◆ 外部との連携			
	◆ カリキュラム開発			
	◆ 会員の紹介			
	■ 学会が持つ宝箱のアピール			
	◆ 学会の魅力の整理	4月-6月		
	◆ 対外アピール	6月-3月	4月-3月	
	■ 広報活動の設計・実行 発信とコミュニケーションは分ける			
	◆ 広報の場の選定	6月-3月	4月-3月	
	◆ 広報コンテンツ作成(ターゲット別コンテンツ、態度変容目標)	4月-6月		
	■ 声かけなどによる地道な会員獲得			
◆ 声掛けによるリクルーティング	6月-3月	4月-3月		
◆ 学会チャリンによる会員獲得(地域は首都圏主体?)	6月-3月	4月-3月		
◆ 学会のパートナー探し	6月-3月	4月-3月		

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第19回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年2月26日(土) 17:00~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：認知症と任意後見制度

劇団「^{びしょうざ}B笑座」第6回。

「私にとって 認知症とは」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。

劇団員募集しています。コロナ禍ということで昼間に行います。Zoomの参加もできます

※お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) までお願いいたします。

(2) 第30回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年3月22日(火) 17:30~19:30
- 2) テーマ：

① テーマ1

長期化するコロナ禍の中で、自分の価値観が変化してきたと思う点について、ざっくばらんにディスカッションしましょう。

② テーマ2 読書会

日経新聞<今を読み解>「男らしさの呪縛を解こう」 生きづらい男性のための4冊
中央大学教授 山田昌弘氏 2021/12/11 の記事で紹介された著書4冊の中から、各々1冊選んで内容紹介。(担当などは当日話し合いで決定) ※ 参加ご希望の方は、以下の4冊から1冊以上お読みになり感想をご準備の上、ご参加ください。

- ① 『「家族する」男性たち おとなの発達とジェンダー規範からの脱却』
大野祥子/著 東京大学出版 2016/4
- ② 『介護する息子たち 男性性の死角とケアのジェンダー分析』
平山亮/著 勁草書房 2017/2
- ③ 『マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か #MeTooに加盟しない男たち』
杉田俊介/著 集英社 2021/9
- ④ 『捨てられる男たち 劣化した「男社会」の裏で起きていること』

※2月22日開催の「第29回 ライフプロデュース研究会」は以下の内容で開催いたしました。詳細については3月のJAASNewsの【研究会概要報告】で報告させていただきます。

- ①「One welfare」という概念の基礎知識と世界・日本の動向などのご紹介。 担当中村
- ②【THE LONELY CENTURY】読書会(最終回)
 - ・第8章：デジタルの鞭(担当：清水) 第10章：孤独ビジネス(担当：中村)

(3) 第29回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年3月23日(水) 15:00～17:00
- 2) 場 所：Zoom開催
- 3) 概 要：次年度研究会での調査に向けてアイデア整理・議論

※参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(4) 第139回 社会保障研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年3月23日(水) 18:00～20:00
- 2) 報告者：小野晶子(労働政策研究・研修機構副統括研究員)
- 3) テーマ：「改正高年法の社会貢献事業と企業ボランティアの方向性」
- 4) zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

[部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp)

[小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)

※ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで
090-4436-6853

(5) 第78回「シニア社会のリテラシー」研究会のお知らせ

2月24日(木)開催予定の例会は、新型コロナウイルス感染予防のため、延期致します。
次回は、3月24日(木)を予定しています。

※お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します。

3. 研究会からの概要報告

(1) 第137回 社会保障研究会報告要旨

- 1) 日 時：2022年1月19日(水) 18:00～20:00

オンライン新年会

参加者：9名

コロナ禍以前には、いつも研究会の後で飲み会を開催し、名刺交換をしたり、新しい知識や情報を得る機会を設けていました。しかし、ここ2年あまりの間は、そうした機会はまったくなく、なかには画面上でしか会ったことがない人もいました。そこでオンライン新年会を開催することにいたしました。

いつもより参加者は少なめですが、かなり濃密な時間を共有することができました。話題が集中したのはコロナ禍、親の介護、自身の老後の三点でした。コロナ禍については、リモートワークが行きあたり必ずしも職場に出なくてもよくなったことから、これからは働き方が変わるのではないかという期待が語られました。他方、福祉系の学生は現場実習を経験することなく社会福祉士や介護福祉士の資格を得ることができるので、介護の質が低下するのではないかという懸念が示されました。コロナ禍のため、親の死に目にも会えなかったという人もいました。

なかには、高齢の親がいるために、自分の老後を考えることができないという人もいました。今日、80代の親を50代の子どもが介護する「80・50」が話題になっていますが、90代の親を70代の子どもが介護するという「90・70」の時代がやってきたことを痛感させられます。

「年をとっても骨折をしたり、認知症にならないように気をつけたい」という意見に対しては、介護相談事業に従事する人から「そういう人に限って、実際に骨折したり、認知症になると落ち込

んでしまう。自然体で受け入れるのが一番だ」というアドバイスがありました。認知症予防の話から、いかにして介護者に受け入れられるような可愛い老人になるかが議論されました。どのように老いるか、そしてどのようにボケるのかは、その人のパーソナリティや生き方に左右されるから年を取ってから直すことは難しい、人に好かれない老人でも十分な介護を受けられるような社会を創ることが必要だという結論になりました。初めての試みでしたが、画面上でしか知らない人たちのプライベート・ライフを知り、お互いの理解を深めることができました。

(袖井孝子 記)

(2) 第27回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2022年1月19日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom開催

3) テーマ：

1. 「さやま市民大学」講座講演報告について(八巻さん、小平さん)

- ・12月13日八巻さんゲスト講師講演「ナイスエイジング」参加者は15-6名オンライン実施
- ・2時間実施、1時間講義、後半1時間ブレイクアウトルームによる意見交換
- ・いろいろな気づきがあった←参加者からは好評との意見
(市民大学参加者からの感想)
- ・わからない時に教えてくれる人がそばにいると安心
- ・何のために使うのかの動機付けが必要
- ・セキュリティの不安がある
- ・使いにくさ/わからない/使うのが怖い・不安もある。

2. 「監視資本主義：人類の未来を賭けた闘い」第2回(齋田さん)

シヨシャナ・ズボフ(著)、野中 香方子(翻訳)、2021、「監視資本主義：人類の未来を賭けた闘い」東洋経済新報社。

第一部：監視資本主義の発展 第6章「乗っ取られて 社会における知の分割」

●「デジタル知」拡張は「知の独占、知の分割」から社会の大変革を引き起こした。

……ネット上の人間行動(主に検索、入力・取引・コミュニケーション、Webサイト遷移)

はGAFAを代表とする大手プラットフォーム企業が占有している。

実はこれはデータの所有・使用・編集・変更・利用の権利を奪取し、乗っ取ったと言える。

これによる「知」に関わる権利の集中独占支配が、監視資本主義を巨大なものにした。

- ・ネット上で手に入れた情報を勝手に使うことで、監視資本主義が急成長。

結果としてGAFAの企業価値は世界のトップに君臨。

- ・デジタル符号化、二つのテキスト

機械が自動で作る『シャドウテキスト』はGAFAの支配権を支える独占的なデータ。

その内容も作り方も利用の仕方も一切が隠蔽され、しかもデータの裏の見えない半分を占める。

その独占がデジタルプラットフォーム企業の力の源泉そのもの。

第二部：監視資本主義の発展 第11章「未来に対する権利」

●著者はハンナ・アーレントの考察に従い、「世界は不確実に満ちている」からこそ、人間の「自由意志が未来を作る」原動力であり、「自由意志は未来を作る権利」、人間の「利害を調整し共生を発展させるための柱」だと考える。

対して監視資本主義は「確実な行動予測が可能」と考え、「行動主義心理学」「機械主義」「人間の自由意志の否定」を想定し「完全なコントロールが可能」とする。「人間行動は刺激と反応」で成り立ち、「人間を機械と同じ」と捉える。監視資本主義の人間理解の論理は全体主義・共産主義と類似している。民主主義を否定し、人間の本質を否定することに繋がる。そもそも「人間の行動」を商品として扱うことはできないのであり、その商品化は制限して民主主義を立て直し、人間の本質を守らなければ未来はない。

- ・行動経済学のナッジ実践で、はっきりと「こうしろ」とは言わないが、「さりげなく行動修

正」させて人間を誘導する。この情報操作を認めてよいのか？情報操作は人間行動変化を生む。それを何にでも認めてよいとは考えられない。情報の投げかけ方によって、相手の行動が変わることを「セカンドテキスト」を使って思いどおりにコントロールすることができる=儲ける可能性がある。(森 記)

4. 貴方が出版した著書を「エイジレスフォーラム」で紹介をしませんか？

現在「エイジレスフォーラム」20号を編集中です。「エイジレスフォーラム」に会員の皆様の著書を紹介するコーナーがあります。各分野で活躍しその成果をまとめた著書を出版されている会員の方が多数いらっしゃいます。是非このコーナーで貴方の著書をご紹介ください。下記に掲載の要項をお知らせしますので、多くの方の投稿をお待ちします。

- <掲載要項> ① 過去3年以内に出版した書籍 ② 書評文字数：1200字
③ 著者名・出版社・出版年月・本体価格 ④ 著書表紙画像（画像を載せるため）
⑤ 送付方法：書評及び表紙画像を事務局宛 e-mail：jaas@circus.ocn.ne.jp に送付
⑥ 締め切り：4月20日（水）必着 ⑦ 問合せ先：事務局 武者宛

多くの皆さまの投稿をお待ちしています。

5. 事務局からのお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

<3月 JAAS News の発行日>

次回 JAAS News 第271号の発行日は、3月23日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、3月16日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

<JAAS News 編集レイアウトをお手伝いして下さる方募集>

毎月お送りしている JAAS News は、原稿が集まった後、Microsoft Word を用いて編集・レイアウトを行い、PDF 仕様で皆様にお届けしています。ドラフト作成までは、事務局内で持ち回りで行っていますが、編集・レイアウトを担う人材が限られており、業務集中をきたしております。会員の皆様のなかで、Microsoft Word を用いた編集・レイアウトの経験があたりの方に、無償ですがお手伝いをお願いできたらと思っております。

手伝いをしてもいいと思われる方がいらっしゃいましたら、その旨、シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp にてご連絡ください。よろしく申し上げます。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月1回オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>